

秋田県・山形県の水中国文化遺産関係資料

著者	佐々木 達夫, 佐々木 花江
雑誌名	金大考古 = The Archaeological Journal of Kanazawa University
巻	69
ページ	36-39
発行年	2011-01-01
URL	http://hdl.handle.net/2297/27158

秋田県・山形県の水中文化遺産関係資料

佐々木達夫・佐々木花江

秋田県・山形県の日本海水中文化遺産に関する資料調査を2009年と2010年に実施した。男鹿半島と鶴岡市、酒田市が主な調査対象地であった。山形県鶴岡市致道博物館の酒井英一氏、秋田県埋蔵文化財センターの桜田隆氏、菅野美香子氏にお世話になった。大槻巖氏から遊佐町海揚がり陶磁器の情報を得た。感謝。

秋田県

秋田県能代市

四爪鉄錨が秋田県能代市能代港はまなす展望台に展示している。頭部欠損、現存長258cm、推定長300cm。現存重さ270kg、推定重さ300kg、約70貫。秋田県能代市役所観光振興課の所蔵である。青森県西津軽郡深浦町久六島付近海底から引き揚げられた。

秋田県男鹿市

石製品と鉄錨：寒風山回転展望台（秋田県男鹿市脇本富永寒風山62）に展示している。入道崎沖海揚がり品である。12月に訪ねたため、冬季休業で展望台は閉館しており、写真撮影ができなかった。

男鹿市民文化会館に昭和時代の秋田杉をくり抜いた丸木船を展示している。

海揚がりの石製子安地蔵が萬境寺（秋田県男鹿市脇本脇本字横町道上167）に地蔵堂を建て保管している。男鹿市脇本沖海底より引き揚げられた。大きな石を彫って作られ、右手を欠損しているが、ほぼ完形品である。住職にお尋ねすると、かなり前に海底から引き揚げられたが、重くて揚がらなかったところ、萬境寺僧侶が行くと揚がったため、萬境寺で保管することになったと言う。

木製仏像：男鹿市脇本海岸に漂着したという仏像で、西念寺（秋田県男鹿市脇本脇本字稻荷下2）に保管しているという。西念寺は公民館隣りにある民家風の小さな寺で、訪問した時は玄関に鎖を巻き付け鍵がかかり、無人であった。

石碑が二か所の寺に保管されているというアンケート回答が男鹿市教育委員会からあった。いずれも記載住所に寺がなく、電話帳に名前がない。地元の方々に

聞いてもそのような寺は無いという。宝塔寺（秋田県男鹿市北浦入道崎字嶋畑132）に石碑があり、北浦入道崎島海岸海底より引き揚げられたと言う。しかし、北浦に宝塔寺は存在していない。近隣の他寺の住職に尋ねると、類似した名前の寺は曾洞宗宝田寺だが、宝塔寺は無いと言う。法華堂（男鹿市五里合イイ中石カウキ）にあるという石碑は、秋田県男鹿市中石南浜野海岸に漂着したと言われている。しかし、中石に法華堂はなく、曾洞宗清宗山洞昌寺のみがある。洞昌寺住職は中石に江戸時代から法華堂は無かったと言う。なお、宝塔寺と法華堂に関する情報は男鹿市教育委員会生涯学習課文化財係からアンケート調査で得た。

男鹿市脇本城跡周辺の海岸は道路でコンクリート護岸され、東方の船越海岸は砂浜であるが陶磁器片は見られない。戸賀湾は大きな港でコンクリート護岸され、周辺に砂浜部分も残るが、陶磁器片は落ちていない。

秋田県井川町

丸木船が井戸杵に転用されて、八郎瀧東岸の秋田県南秋田郡井川町洲崎遺跡から発掘され、秋田県立博物館に展示されている。洲崎遺跡は13世紀から16世紀の陶磁器が出土しており、多くの住居跡とともに井戸跡も300基ほどが発掘され、その中に丸木船を転用した井戸杵も見られている。

秋田県秋田市

秋田県立博物館に秋田市土崎湊の薬屋、加藤綾氏所蔵品の九谷焼色絵大碗3点が展示されている。19世紀後半の九谷焼流通の資料の一つとなる。同じ展示ケースには漆器も並び、儀礼用の優品である。

山形県

山形県遊佐町周辺の水揚がり品

2003年、山口博之氏が飛島と吹浦の間の海峡から底引き網にかかって引き揚げられた4点の水揚がり品があることを紹介している（山口2003）。8～9世紀代の須恵器甕2点（致道博物館所蔵と個人所蔵）、近世唐津焼瓶1点（遊佐町教育委員会所蔵）、明治時代陶器製尿瓶1点（致道博物館所蔵）。このうち、個人蔵須恵器甕1点の実測図を掲載し紹介している。

大槻巖氏の調査により、飽海郡遊佐町周辺地域の水揚がり品から引き揚げられた19世紀頃の徳利3点が知られている。遊佐町水揚、鶴岡市鼠ヶ関港水揚で引き揚げられた近世、幕末明治の徳利である。このうち1点は

山口氏が近世唐津焼瓶 1 点（遊佐町教育委員会所蔵）と紹介した越後産陶器瓶であろう。漁師の家に未発表資料がさらに保管されているようである。新潟市巻の松郷屋焼の海鼠釉陶器、新潟県阿賀野市笹神の笹岡焼の灰緑釉陶器や飴釉陶器で、越後（新潟県）産と推定される製品である。北海道南部や青森県脇野沢沖で引き揚げられた徳利と類似している。大槻氏が確認した 3 点は青森県脇野沢海底引き揚げ品（佐々木、野上、佐々木 2010）と同じ種類が見られる。

山形県鶴岡市致道博物館蔵品

山口博之氏が海揚がり品の存在を紹介した須恵器壺 2 点と陶器製尿瓶 1 点に珠洲焼壺を加えて、財団法人致道博物館の酒井英一氏が 2006 年に致道博物館所蔵の海揚がり陶磁器 4 点を紹介している（酒井 2006）。須恵器壺 2 点、珠洲焼壺 1 点、薩摩焼尿瓶 1 点である。

須恵器壺 A。昭和 44 年に山形県酒田市飛島の東側近海海底から引き揚げられた。底部は欠損。現高 41.6cm、推定高 44cm、口径 22.7cm、胴部最大径 43.1cm、褐灰色で硬い。貝殻痕が白く付く。8 世紀前半の製品である。

須恵器 B。2003 年に実測図が紹介され（山口 2003）、酒井氏が再紹介している。平成 10 年に山形県酒田市飛島沖の近海海底から底引き網に掛り引き揚げられた。高さ 44.5cm、口径 23.5cm、胴部最大径 43.7cm、底部は緩く尖る。8 世紀頃の製品か。

珠洲焼壺。中世須恵器として 1980 年に紹介されたもので（佐藤 1980）、酒井氏が再紹介している。鶴岡市温海沖から昭和 40 年代に底引き網に掛けて引き揚げられた。昭和 60 年頃に山形県漁協吹裏漁港から博物館に寄贈された。外面に綾杉状に叩き文、内面に円形あて痕が残り、焼成時に胴下部が歪み凹む。高さ 39.7cm、口径 34.0cm、底径 11.0cm、胴部最大径 33.9cm。暗灰色で焼締まる。貝殻付着痕が残る。14 世紀前半の製品である。

陶器澁瓶。山形県酒田市飛島沖から昭和 60 年 4 月、底引き網に掛けて引き揚げられた。灰褐色釉が掛るが、貝殻で白く見える。注口が付き、高さ 24.3cm、胴部最大径 18.2cm、底径 11.0cm。鹿児島大学の渡辺芳郎教授のご教示では、「近年の研究で近世初頭の朝鮮陶工によってもたらされた器形の可能性が指摘されている。薩摩焼でも 17 世紀前半の苗代川堂平窯跡から出土例が確認されており、その後も焼かれ続けたよう

である。ただ同器形の澁瓶は、福岡でも焼いており、朝鮮陶工系の九州各地の窯で生産されていた可能性がある。今のところ広く九州系とするのが良い。なお一部露出している胎土の感じから、焼締陶である能野焼とは違うように思われる。」ということである。

致道博物館の陶磁器

致道博物館には多種類の歴史資料が保管展示されているが、建物の外にも大甕などが多数並んでいる。徳島県の大谷焼甕・鉢、島根県の温泉津焼甕も多く見られ、北前船が瀬戸内や日本海の産地から当地に運んだことを伝える資料である。

山形県庄内の中世石造文化財

西日本や北陸から日本海を運ばれてきたと推定される庄内地方の中世石造文化財を川崎利夫氏が紹介している（川崎 2006）。加茂極楽寺の石塔群、加茂海印寺の石仏等、楯尾尾神社の石鳥居、一石五輪塔、背光五輪塔である。近世にも狛犬や丸彫り石仏、墓標など同様に日本海を運ばれた文物は多いという。このうち今のところ、海揚がり品とわかるものは無い。

山形県酒田市立資料館蔵品

酒田市立資料館に酒田沖から引き揚げられた須恵器壺が展示されている。庄内の家で土台石や敷き石に使用した福井県の笏谷石を展示。海揚がりかどうか不明だが、錆びた四爪鉄錨を 3 本展示。

秋田県・山形県の水中文化遺産関係資料

秋田県の水中文化財はこれまでに資料紹介された点数が少ない。日本海側で数多く発見される海揚がり陶磁器が、まだ紹介されていないようである。比較的新しい石仏などの石製品と鉄錨が主な資料である。山形県では鶴岡市や酒田市、遊佐町の沖合で底引き網に掛けて引き揚げられた陶磁器が以前から知られている。古代の須恵器壺、中世の珠洲焼壺、近世の徳利などの陶磁器があり、北海道南部の引き揚げ品と時代と製品が類似している。

島根県の隠岐、石川県の能登半島と舩倉島、新潟県の佐渡、粟島、山形県の飛島、秋田県の男鹿半島は本州に沿って日本海の海上交通路上に並ぶ海の拠点であり、漁業も盛んで水や食料の補給地でもあった。飛島と吹浦の間の海峡及び飛島周辺には海底に沈む文化財がまだ残るようである。

文献

川崎利夫, 2006「日本海を渡ってもたらされた庄内の中世石造文化財」『庄内考古学』22号、59-71。

酒井英一, 2006「庄内沖から引き上げられたやきもの」『庄内考古学』22号、103-107。

佐々木達夫・野上建紀・佐々木花江, 2010「青森県むつ市・北海道松前町・上ノ国町・江差町・函館市の水中文化遺産」『金大考古』68号、1-12。

佐藤禎宏, 1980「最上川出土の珠洲系陶器」『庄内考古学』17号、57-82。

山口博之, 2003「遊佐荘大楯遺跡の成立」『山形県埋蔵文化財センター研究紀要』創刊号、77-116。

(金沢大学 ,tatsuosasaki@hotmail.com)



秋田杉をくり抜いた丸木船。昭和26年に作られ、加茂青砂の海岸で海藻などを採るのに用いた。国指定有形民俗文化財。長さ6.55m、幅0.86m。男鹿市教育委員会蔵、男鹿市民文化会館展示。明治3年には389のまるき船が男鹿半島にあり、真山・本山の樹齢300年以上の秋田杉をくり抜いて造っていた。



石製子安地藏。秋田県男鹿市脇本脇本字横町道上167、萬境寺保管。脇本沖海底から引き揚げられた。



木製仏像が保管されるという西念寺の室内。秋田県男鹿市脇本脇本字稲荷下2。仏像は男鹿市脇本海岸に漂着したと言うが、詳細不明瞭。

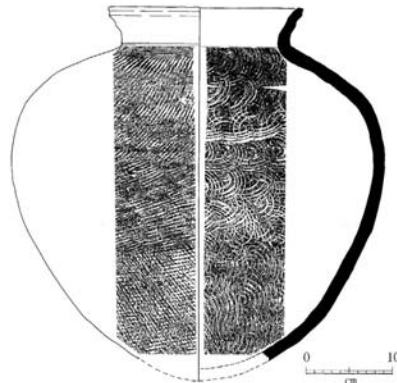


秋田県能代市能代港はまなす展望台展示4爪鉄錨、頭部分欠損。現在長258cm、推定長300cm。現在重さ270kg、推定重さ300kg、約70貫。秋田県能代市役所観光振興課所蔵。青森県西津軽郡深浦町久六島付近海底から引き揚げ。

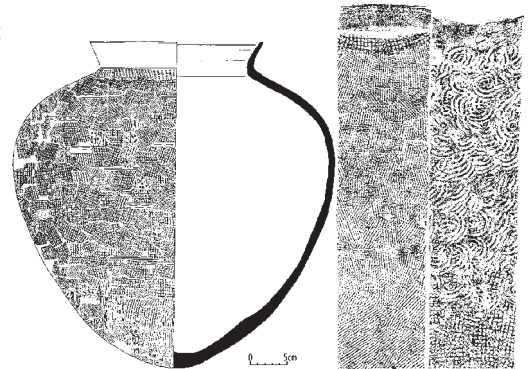
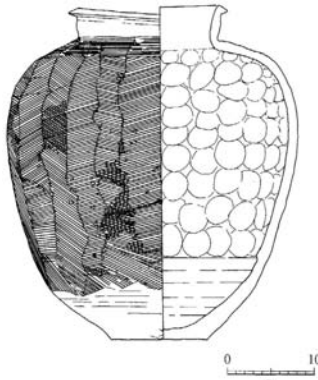


秋田県井川町の洲崎遺跡は八郎瀨東岸にあり、13世紀から16世紀の住居跡が発掘され、300基ほどの井戸も発見された。その中には丸木船を転用した井戸枠も発見された。秋田県立博物館展示。

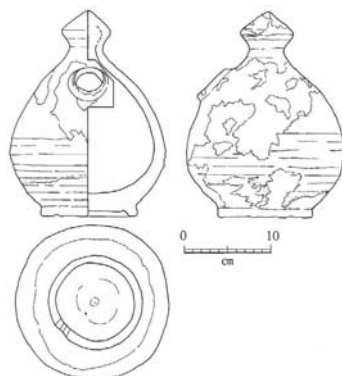
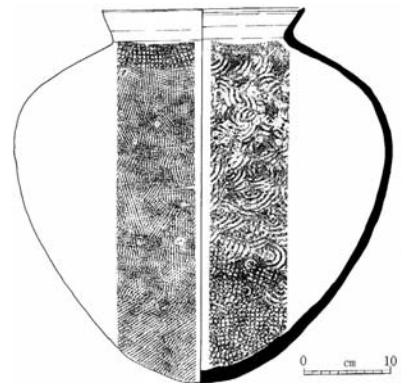
Fig.1 秋田県の水中文化財関係品



須恵器壺 A。昭和 44 年に山形県酒田市飛島の東側近海海底から引き揚げられた。底部欠損。現高 41.6cm、推定高 44cm、口径 22.7cm、胴部最大径 43.1cm、褐灰色で硬い。貝殻痕が白く付く。8 世紀前半。致道博物館蔵。酒井英一実測。



珠洲焼壺。山形県鶴岡市温海沖から昭和 40 年代に底引き網に掛けて引き揚げられた。外面に綾杉状に叩き文、内面に円形あて痕が残り、焼成時に胴下部が歪み凹む。高さ 39.7cm、口径 34.0cm、底径 11.0cm、胴部最大径 33.9cm。暗灰色で焼締まる。貝殻付着痕が残る。14 世紀前半の製品。致道博物館蔵。酒井英一実測。



九州系陶器渡瓶。酒田市飛島沖から昭和 60 年 4 月、底引き網に掛けて引き揚げられた。灰褐色釉が掛るが、貝殻で白く見える。注口が付き、高さ 24.3cm、胴部最大径 18.2cm、底径 11.0cm。致道博物館蔵。酒井英一実測。

須恵器 B。平成 10 年に山形県酒田市飛島沖の近海海底から底引き網に掛り引き揚げられた。(上図) 山口博之が『山形県埋蔵文化財センター研究紀要』創刊号で実測図を紹介。(下図) 高さ 44.5cm、口径 23.5cm、胴部最大径 43.7cm、底部は緩く尖る。8 世紀頃か。個人蔵、致道博物館保管。酒井英一実測。



酒田沖の海揚がり須恵器壺、酒田市立資料館蔵。

Fig.2 山形県の水中文化財関係品